

JPA 日本光線力学学会 *NEWS LETTER*

NO.26 MAR. 2022

Contents

- | | | |
|-------------------------|-------|--------|
| ・大会後記 第31回日本光線力学学会学術講演会 | 松井 裕史 | 2 ページ |
| ・今後の学術講演会開催予定・関連学会開催予定 | | 3 ページ |
| ・特別寄稿 追悼 久住治男 先生 | | |
| 久住治男先生の思い出 | 加藤 治文 | 5 ページ |
| 名誉幹事 久住治男教授のお人柄と偉業を偲んで | 三好 憲雄 | 8 ページ |
| ・事務局からのお知らせ | | 12 ページ |
| ・編集後記 | 井上 啓史 | 14 ページ |

大会後記

「LASER WEEK IN TOKYO II 第 31 回日本光線力学学会学術講演会 大会後記」

筑波大学医学医療系 松井裕史

第 42 回日本レーザー医学会 貴志和生会長、第 17 回日本脳神経外科光線力学学会園田順彦会長とともに LASER WEEK IN TOKYO II を共催しようと決まったのが 2 年前。その時はコロナ禍がここまで世界を席卷するとは思わずにいました。3 人でぎりぎりまで対面開催の可能性を探りましたが、ハイブリッドでは経費的に折り合いがつかずやむなく Web 開催となりました。

特別講演、教育講演は小職のわがままを両会長に受け入れていただき、日本が誇る世界の体操選手加藤澤男筑波大学名誉教授と、新しく共同で「複合型陽子線力学療法 (iPDT)」を開発しているけ経済産業省産業総合研究所の岩田康嗣招聘研究員にお願いしました。金メダル 8 個、銀メダル 1 個、銅メダル 3 個と日本人で最高のメダル数を誇る加藤先生は、「練習で 100% 失敗しないと確信が持てる技しか演じなかった」と述べられました。とことん自分を磨き、磨きぬいてこその実績を上げた競技者の矜持が理解できた瞬間でした。また、岩田先生にお話いただいた iPDT ですが、窒素安定同位体をがん組織特異的に送達し、陽子線を照射することで発生する核共鳴反応を利用し、がん特異的に α 線と炭素線で治療するという画期的治療法です。送達に利用する薬剤は ALA を用います。多年小職が研究してきたがん細胞特異的なヘム・ポルフィリン代謝を利用すべく ALA の窒素を 15N に置き換えたものを使う予定です。15N-ALA のような安定同位体置換薬剤は既存薬と生物学的化学的性質が同一なため、ヒトボランティア試験を割愛できるという前例があります。したがって前臨床でよい成績が収められれば速やかに臨床治験に移行できます。がん特異的ポルフィリン集積を利用し、レーザー光で PDT を、レーザー光が届かない深部のがんの治療には陽子線照射で iPDT を施行するという戦略でこれからのがん治療を開拓していきたいと思っています。

このほかにも多数優れた演題がありました。Web ということで盛り上がり欠けるのではという心配は杞憂に終わりました。

最後にご支援、ご協力いただいた方々に御礼申し上げ、大会後記とさせていただきます。

今後の学術講演会開催予定

敬称略

◆ 第 32 回 日本光線力学学会学術講演会

大 会 長：岡本 芳晴（鳥取大学農学部共同獣医学科）
会 期：2022 年 11 月 25 日（金）・26 日（土）
会 場：鳥取県米子市（米子コンベンションセンター BIG SHIP）
・第 18 回日本脳神経外科光線力学学会と共催

◆ 第 33 回 日本光線力学学会学術講演会

大 会 長：片岡 洋望（名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学）
会 期：2023 年 11 月 23 日（木）～ 26 日（日）（予定）
会 場：東京近郊
・Laser Week in Tokyo III として、日本レーザー医学会、日本脳神経外科光線力学学会、日本レーザー歯学会の 4 学会共催

関連学会開催予定

◆ 18th International Photodynamic Association World Congress

会 期：2022 年 6 月 23 日（木）～ 28 日（火）
会 場：Moscow, Russia
会 長：Elena Filonenko, MD
ホームページ： <https://ipa2022.com/>

◆ 4th PDT - PDD SYMPOSIUM

会 期：2022 年 10 月 14 日（金）～ 28 日（金）
会 場：Nancy, France
ホームページ： <http://www.pdt2022.com/>

第32回 日本光線力学学会学術講演会 第18回 日本脳神経外科光線力学学会 合同開催

会期

2022年11月25日^金・26日^土

会場

米子コンベンションセンター BIG SHIP

〒683-0043 鳥取県米子市末広町 294

会長

第32回
日本光線力学学会学術講演会

岡本 芳晴

(鳥取大学農学部 共同獣医学科獣医外科学 教授)

第18回
日本脳神経外科光線力学学会

山本 哲哉

(横浜市立大学医学部 医学研究科 脳神経外科学 教授)

大会HP

<http://takaihomepage.atari.jp/next.html>

特別寄稿

久住治男先生の思い出

記 2021年11月17日

前 JPA 会長・加藤治文

(東京医科大学名誉教授)

(日本医療学会理事長)

国際光線力学学会 (International Association of Photodynamic Therapy, IPA)、日本光線力学学会 (Japan Photodynamic Association, JPA) の創設時からそれぞれ理事、幹事として、



〈1986年4月30日〉

IPA(International Photodynamic Association) 設立発起人会
東京京王プラザホテルにおいて PDT 臨床応用の第1回国際会議 (International Conference on CAPDT) の席上で IPA の設立が決められた。

泌尿器科の分野で PDT の普及に努力された金沢大学名誉教授が令和3年8月21日に93歳で逝去されました。

わが国はもとより国際的にも PDT の臨床応用に多大な貢献をされました。

敬愛する一人の友人がこの世を去られたことは非常に悲しく寂しい出来事であり、悲しみは計り知れません。

私が久住先生に最初にお会いしたのは1975年春でした。スウェーデンのストックホルムでした。カロリンスカ研究所に単身で留学に来られ、私と同じくベンネルグレンセンターに住まれることになった時でした。私はカロリンスカ研究所で肺がんの発

がん過程の研究をし、久住先生は泌尿器科疾患の研究をされていました。当時日本人研究者は数少なく、しばしば日本語での会話が懐かしくなりお付き合いが始まりました。ストックホルムには日本食レストランは一軒ありましたが、韓国の人が経営しておりましたので、真の味は得られず、一人住まいの金沢出身の美食家の先生は寂しい思いをされておられましたので、時々私どもの住居にお招きして家内の作る日本食で楽しい時間を費やしておりました。スウェーデンの住居は、ゆったりと設計されており、ベンネルグレンセンターは一人一部屋が原則で私の家族は子供を含め4人でしたので、4部屋のほかに広々としたリビングルームがあり、カロリンスカ研究所の仲間や友人、ボスを招いて、久住先生ともどもよくパーティーをしました。日本の話、研究の話、子供の教育、スウェーデンの社会保障制度、美味しい(?) スウェーデン料理の話など深夜まで会話を楽しんだものでした。ベンネルグレンセンターにはノーベル賞受賞者をはじめとして各国からの研究者が住んでおり、学問の匂いの高い環境でした。

ストックホルムはスウェーデンの首都ですが、町全体が豊かな自然に囲まれ、きれいで澄んだ空気、美味しく冷たい水道水など日本のスモッグで汚れた都市とは比べ物にならないほど近代的で整備された街でした。アトピーで全身湿疹を患っていた子供がスウェーデンに移住して

間もなくきれいに治ってしまいました。休日には近くのハガ公園を散策したり、郊外の田園風景を楽しんだり、バイキング時代の遺跡を訪問したり、先生との思い出が懐かしく思い出されます。

スエーデンから帰国し、1978年に肺がんのPDD、PDTの研究を始めることになり、数年後のある時、東海道新幹線の車中で偶然久住先生にお会いし、その時にPDTのお話をしたところ、先生は大変興味を示されておられましたので、1983年厚生省がん助成金研究班（早田班）に加わっていただきました。研究班では膀胱にレーザー光を均一に照射する方法を考案され、基礎実験、臨床実験をされました。その時の金沢大学の協力者は内藤克輔講師、三好憲雄助手でありました。その装置をインテグラル照射装置と名付けられ、膀胱全体に均一な照射ができるような最先端技術が駆使された装置でありました。そして膀胱がんの治療に応用され、効果を示されました。基礎研究グループには、東京医大第二生理学教室の會澤勝夫助教授、旭川医大の中島進助教授、北海道大学の竹村健教授、東北大学の稲場教授、臨床的には膀胱がんでは久住教授、内藤講師、呼吸器では千葉大学の山口豊教授、東京医大の私ども、大阪成人病センターの宝来威部長、近畿中央病院の古瀬清行部長、福岡正博先生、楠洋子先生、久保田馨先生、消化器では東京女子医科大学の鈴木茂助教授、奥島憲雄先生、愛知県がんセンターの春日井達三部長、大阪成人病センターの奥田茂部長、三村征四郎医長、神戸大学の中村哲也先生、岐阜朝日大学の井田和徳教授、婦人科では千葉大学の高見沢裕吉教授、杏雲堂病院の天神美夫院長、室谷哲弥先生、坂本優先生らによる治験が集積され、早期がんには効果が認められました。1986年から新たな研究班（加藤班）に移行し、早期がんに対するPDTの臨床研究が全国組織で行われました。いずれも良好な治療成績が示された中で久住治男教授御大率いる膀胱がんでは、孤立性の膀胱がんでは良好な効果が認められましたが、早期がんでも最も治療の困難な膀胱全摘が適応になるような膀胱全域に及ぶ表層性がんを対象とされたために、他の臓器の早期がんとは裏腹に30%程度の治癒効果しか示されませんでした。しかし久住教授の果たされた画期的な照射方法や献身的な努力は国際的にも高く評価されました。

1986年の2度目の厚生省研究班での早期がん（肺、食道、胃、子宮頸部）の症例集積とPDTの治療成績が評価され、PDTの多施設協同臨床試験（Phase II）が早期の中心型肺がん、胃がん、食道がん、子宮頸部がんに対して実施され、安全性と好治療成績が示され、1994年厚生労働省の薬事承認が得られ、保険収載されました。PDTの臨床への認可は世界で初めての快挙でありました。これがきっかけとなって世界各国で認可が下りることになり、今では早期中心型肺がんの標準治療として認められるに至りました。

先生は1986年国際光線力学的学会の創立に参加され、PDTの世界的普及に大きな功績を示されました。1998年には腫瘍親和性光感受性薬剤の第二世代とも言うべくレザフィリンとダイオードレーザーによるPDTの多施設臨床Phase II試験が試みられ、2002年に厚生労働省の薬事承認が得られ、治療効果の改善はもとより、日光過敏症の著減は革新的でありました。更に蛍光内視鏡の開発がメーカーと進められ、2004年のPentax SAFE 3000の完成は肉眼では観察できないような早期がん病巣の局在診断に画期的な威力が発揮されました。また、OCT

(Optical Coherence Tomography) の開発は粘膜浸潤深度の診断に有効性が示され、これらの進歩によって PDT の適応病巣を的確に診断できるようになり、PDT の個別化治療への方向が示されました。

久住先生のご逝去は実にさびしく、悲しい出来事でありましたが、先生が構築された膀胱がんに対する PDT の臨床的な意義は今後も世界で受け継がれていくでしょう。この治療法は、低侵襲性で安全性、高精度な治療能力、安価であることなどが国民の要望するところであり、今後の医療には何よりも貴重なことであります。

久住先生どうぞ安らかに眠りください。

合掌



〈1975 年 7 月 10 日 1 日〉
スウェーデン Wenner Gren Center
若かりし日の久住先生



〈1992 年 7 月 14 日〉
中国大連での PDT 講演会
真ん中の美人女性は中国の受講医師



〈1992 年 9 月 4 日〉
第 2 回 JPA(中島進会長) 坂井英一先生
Barron 先生と北海道旭川市



〈2010 年 6 月 13 日〉
第 20 回 JPA(三好憲雄会長 福井市)
市民講座
歌手ソプラニスタ武田すばる氏と久住夫妻



〈1992 年 6 月 24 日〉
第 4 回 IPA イタリア ミラノ
Pasquel Spineli 会長、久住夫妻



〈2011 年 7 月 2 日〉
第 21 回 JPA(栗津邦男会長 大阪) 幹事会
での久住先生

名誉幹事 久住治男教授のお人柄と偉業を偲んで

記 令和4年1月28日
当 JPA 幹事・三好憲雄 拝
(筑波大学医学医療系・研究員)
(関西学院大学理工学部・研究員)



本学会名誉幹事、金沢大学名誉教授 久住治男先生には、令和3(2021)年8月21日早暁にご逝去されました。享年93歳でした。

久住教授には私がお世話になるきっかけから申して、拝見した「久住先生像」から述べさせて頂きたく存じます。私は九州で学位授与後地元北陸に引き上げて参りました頃、当時金沢大学薬学部の専攻生として、レーザーを扱う光化学実験をやって居りました。同キャンパスの医学部・泌尿器科教室より、「レーザーを使えて膀胱癌の光線力学治療に間に合う人間が至急ほしい」と、薬学部の当教室にオファーがありました。その頃はまだポストドクター(博士研究員)のような制度が当大学には無くて確か非常勤の身分で約二年半お世話になりました。教授はこれを気にして頂き、「新しいポストが見つければいつでも止めてそちらへ行ってくれて良いのだよ。」と仰って頂き、厳しいながらも一貫して細やかな心配りの優しい教授でありました。それは本学会第20回学術講演会の懇親会・祝辞の中で、開催当時の私の研究ポスト環境を心配され、ご自身込み上げて思わず男泣きして頂いたのを今でも忘れません。教授の繊細な優しい思いの一端を垣間見たように思われ、私の心の中でこの涙を無駄にしては成らぬと、今でもこのお気持ちを大切にしております。

久住教授は1982年より金沢大学泌尿器科学教室を約11年間主催され、新たにレーザー医学を当教室の研究の柱に据えられ、当時厚生省のがん特別研究班：早田・加藤両会長の各班会議に1982年から1992年まで班員として参加され、泌尿器科領域でのPDT(Photodynamic Therapy)研究を主導され、臨床面でも外来でアルゴン-色素レーザーや英国オックスフォード大学より金蒸気レーザーを国内で最初に臨床に導入され、膀胱癌やペニス腫瘍PDTの臨床家主導の臨床研究を実践されました。しかし班会議に於いて久住教授は本臨床研究の結果より、当膀胱癌治療をPDT対象には推奨されませんでした。その後5-Aminolevulinic Acid(5-ALA)を経口投与した術中蛍光診断切除術(PDD: Photodynamic Diagnosisの外科併用治療)として、脳外科と同じく私が10年間主催の5-ALA研究会に参加された高知大学の井上啓史教授へとバトンタッチされて居ります。尚、本研究会はポルフィリンALA学会として名を変え、現在も20年間を経て継続・維持されて居ります。

また、教室には当時三崎先生・故内藤先生(元山口大学教授)・打林先生の歴代3医局長が久住教授を支えられて居られたように思います。お陰で私は当教室で2年半もお世話になり、その後も16年間非常勤講師としてお世話になり久住教授と並木教授を始め医局の先生方に心

より感謝申し上げます。

さらに久住教授の現役時代に、私のところに今も残っている言葉があります。それは「患者さんを人質にするような事は、決してなしてはいけない!」と、若い医局の先生方に常々注意を促して居られたように記憶しております。これは医療従事者でない私にまで強い戒めとして思い出されます。

久住教授の本業績は、「久住治男教授退官記念業績集」(金沢大学医学部泌尿器科教室;ご退官1年後の平成6(1994)年3月発刊)の記載内容に従います。まずは、退官するに当たり久住教授ご自身による「発刊によせて」の抜粋から引用させていただきます。「金沢大学医学部泌尿器科学教室の発足は昭和30年9月で、恩師、故黒田恭一先生が初代教授として教室の基礎作りに精力を傾けられました。昭和57(1982)年1月より、私が二代目の教授として黒田先生の偉業を継承することとなりました。以来11年間教員各位とともに全力を尽くして教室の発展に当たったことは、いまや終生忘れがたい思い出となりました。」を皮切りに、「特に研究対象については先端技術を取り入れた光化学とレーザー、電磁波を用いたハイパーサーミアなどにより、全国よりがん患者さんを集めることを考えました。幸い文部省科学試験研究補助金や、厚生省よりのがん助成金などにより、これらの基礎的研究も大変進歩することができました。その他の研究としては感染症、結石症、抗がん剤感受性試験、神経因性膀胱、泌尿器がんのオンコジンに関するものが主で、それぞれの研究者たちの功績には見るべきものが多々あったと思っております。この業績集の表紙にはこれらの研究を代表する写真を用いてデザインを行い、用いる紙は薄くし軽量化を計るようお願いしました。」の記述のとおり、久住教授は常に細やかな心尽しと何事にもご配慮のある方でありました。

「今回私の定年退職を記念してとのことでありますが、一つの節目として教室の業績集が刊行されますことは、教室員各自が自らの研究の足跡を総括的に確認する上で極めて有益であり、ひいては今後各位の切磋琢磨と研究の発展、向上に役立つことでありましょう。」といつも教室員のお一人おひとりの将来を心配して居られたように思い出されます。

「私としてはこの機会をとらえ、私を中心として活躍してくれた諸君、そしてそれらを周りより支えて頂いた外来・病棟の看護婦さん、先輩諸兄や、関連の各教室・学会の諸先生に深甚な感謝の意を捧げるものであります。」と、周囲のあらゆる方々への深甚なる感謝を申して居られる処は、正に久住教授の心深いご配慮の現れと存じます。

「最後に公務繁多のなか、一致して煩雑な編集作業にあたられた医局長打林忠雄講師、越田潔講師、徳永周二講師らのご苦勞に感謝し、またわが泌尿器科教室の益々の発展を祈念するものであります。」と結ばれておられます。

当教室ではいつも当直の先生方と共に、楽しい基礎研究だけでなく臨床研究の厳しさを骨身に染みる思いで貴重な経験をさせて頂きました。これは福井医科大学病院での病理細菌助手と

して職に就ける機会を得て、病理解剖 300 体以上の貴重な経験に繋がり、久住教授に心より感謝申し上げるしだいであります。

以上が久住教授の人となりについて申し述べましたが、その偉業につきましても、記念業績集より引用させて頂き、抜粋して申し上げたいと存じます。

昭和 20(1945) 年 3 月に福井県立旧制武生中学校 (私と同郷・現武生高校) を卒業後、翌年海軍経理学校に入校され、昭和 23 年 3 月には第四旧制高等学校理科乙類を卒業され、昭和 27 年 3 月には旧制金沢医科大学 (現金沢大学医学部) を卒業されて居られます。その後医師免と学位を取得後、昭和 34(1959) 年 4 月より医学部泌尿器科学教室の助手、講師、助教授と昇進され、昭和 50 年 9 月より文部省長期在外研究員として 1 年間スウェーデン王立カロリンスカ研究所に留学され、帰国後、昭和 57(1982) 年 3 月より本教室の教授となられ、三崎講師、故内藤講師 (後、山口大学教授に栄転) を始め当医局員の上木先生、越田先生等多くの院生をカロリンスカ研究所へ、あるいはハーバード大学等の米国やドイツの大学へ、毎年のように凡そ 12 名の方々が留学に出て居られました。本教室に於いては初めての試みではなかったでしょうか? 恐らく学内でも学際的医局として、注目を自ずと浴びていたものと存じます。私までこの留学ラッシュに感化を受けて、NIH の国立がん研究所 (NCI) に、福井医科大学・腫瘍病理学教室より文部省長期在外研究員として留学させて頂いたしだいです。

9 つの各臨床医学会の理事・評議員・会長を兼ねられ、第 79 回日本泌尿器科学会と第 11 回日本レーザー医学会大会 (事務局長: 故内藤講師) を同年の平成 2(1990) 年に開催され、第 13 回日本医学・光生物学会 (事務局長: 故内藤講師) を平成 3 年に、その翌年の平成 4 年には第 9 回日本ハイパーサーミア学会を主催されて居られます。特記すべきは平成 3 年に第 15 期日本学術会議会員を第 7 部所属で務めて居られます。

上記の偉業の功績により、在職中に、昭和 59 年 11 月 22 日には永年勤続の表彰、昭和 62 年 11 月 3 日には北國文化賞 (癌に対する光力学的レーザー治療の研究)、平成 2 年 11 月 3 日には金沢市文化賞 (泌尿器科悪性腫瘍の研究)、平成 3 年 3 月 19 日には、特記すべき北極星勲章ナイト・コマンダ (ノーベル賞授与と同じくスウェーデン国王より永年の学術交流に尽力されたため) を授与されて居られます。これから 30 年も過ぎた現在も、日瑞泌尿器科共同研究基金制度 (事務局長: 前公立能登総合病院長・上木先生) が維持・管理されて居りますことは、久住教授の偉業の遺産としか思えません。

著書数は 59 冊 (英文が 49%)、学術誌論文数は総説が 44 編、原著論文が 452 編 (英文が 25%) を、限られた 11 年間での本教室の研究成果であります。尚、学会発表 (総数 724 演題; 年平均 66 演題) が発表され、特に当教室から日本レーザー医学会 (26 演題)、光線力学学会学術講演会 (30 演題) やその関連国際会議 (39 演題) にも活発に発表がなされており、当教室では毎年国内外を問わず重要な研究活動となって定着して居りました。

よって、当時我が国の本光線力学会の泌尿器科領域に於いて、学会組織の発展には教室を上げての幾多の貢献をされてきたことは言うまでもありません。

また、本学会元加藤会長からご推薦の第20回の学術講演会を私が主催させて頂いた時(2010)も、久住教授は我が事のように、退職されて16年も経ったご高齢(当時81歳)にも拘らず、学術講演会最終日午後の開催20周年記念市民公開講座(入場無料)の第1部のアトラクション:「清浄なる癒しの歌声“ソプラニスタ SubaRu”によるクラシック、ポップスなどの名曲からの珠玉のコンサート」の企画・招聘と、第2部の6名の各診療科領域(皮膚科:松本義也教授;胸部外科:古川欣也教授;光学診療部:中村哲也教授;産婦人科:室谷哲弥教授;脳外科:



金子貞男病院長;泌尿器科:井上啓史教授)の先導的PDT/PDD臨床研究の先生方(手弁当)による、シンポジウム形式の市民に優しい各講演タイトルのご指導を賜りました。当地福井県にとりまして今までにない市民記念企画に於きましても、久住教授の親身のご指導のお陰で、大変助かり好評のうちに無事終わることが出来ました。

上の写真は当年90歳を迎えられた時のものですが、これまで当学会現役幹事としても名誉幹事としても、陰日向に本学会発展に向けて、こうして果たされた偉業を振り返りながら、故久住教授を追悼し、併せてご冥福を心より祈念申し上げます。

事務局からのお知らせ

- 2021 年度 日本光線力学学会 幹事会報告(オンライン開催) (2021 年 10 月 23 日開催)
 - ・ 2021 年 9 月現在 会員数 179 名 (2020・2021 年 新規入会者数 13 名)
 - ・ 2020 年度年会費納入者数 延べ 190 名

- 2020 年度会計報告(自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日)
 会計: 奥仲 哲弥 先生 監査: 金子 貞男 先生、西脇 由朗 先生

(1) 収入の部

前期繰越金	5,948,354	円
会費収入	950,000	円
第 29 回学術講演会より返還金	2,358	円
第 30 回学術講演会より返還金	600,000	円
第 30 回学術講演会より寄付金	500,581	円
預金利息	48	円
収入総計	8,001,341	円

(2) 支出の部

事務経費(郵送料・文具・振込手数料他	71,099	円
第 31 回学術講演会開催準備金	600,000	円
PDT 講習会開催経費	927,202	円
支出総計	945,967	円
(1) - (2) = (3) 繰越収支差額	7,055,374	円

- 2024 年 第 34 回大会会長に、秋元 治朗 幹事(東京医科大学・厚生中央病院)が選出されました。

- 幹事の退任、新任などについて 以下が承認されました。

退任 会 長 加藤 治文 先生 (東京医科大学)
 新任 会 長 古川 欣也 先生 (東京医科大学茨城医療センター)

- 学会事務局移転について

事務局を「東京都中央区築地 1-12-22 コンワビル 5F」に移転することが承認されました。

- 学会組織を社団法人化することが承認されました。

- 年会費について

2022 年度の年会費 5,000 円の払込票を同封いたします。
 2022 年 12 月 31 日までにお振込みいただきたくお願い申し上げます。
 年会費 : 2022 年度 5,000 円
 郵便振替 : 00150-9-371545 日本光線力学学会
 会計年度 : 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日迄

※ 10,000 円の振込票が同封されている会員の方は、2021 年度年会費が未納になっております。

2022 年度年会費と合わせてお振込みをお願い申し上げます。

2021 年度以前の年会費を納入されていない会員の方には未納分年会費払込票を同封いたします。

早急にお振込みをお願い申し上げます。

- HP にて、動画による PDT 対談シリーズがスタートしています。

第一回は、「がん治療に期待高まる PDT」(古川欣也先生と加藤治文先生)。
 次回は、「肺がん」(臼田実男先生と加藤治文先生)をテーマに 4 月掲載予定。

日本光線力学学会 役員 (2021 - 2022 年)

*50 音順、敬称略

名誉会長	加藤 治文						
	故 早田 義博						
名誉副会長	中島 進						
会長	古川 欣也						
名誉幹事	會沢 勝夫	林 潤一	故 久住 治男	平野 達	三木 徳彦		
	故 竹村 健	故 平嶋登志夫	故 三村征四郎	故 吉田 知之			
幹事	秋元 治朗	荒井 恒憲	粟津 邦男	池田 徳彦	石川 栄一		
	伊関 洋	磯本 一	井上 啓史	臼田 実男	浦野 泰照		
	大崎 智弘	大崎 能伸	岡崎 茂俊	岡本 芳晴	小笠原浩二		
	奥仲 哲弥	小倉俊一郎	小澤 俊幸	尾花 明	片岡 洋望		
	金山 尚裕	川島 徳道	北田 正博	小中 千守	小林 正美		
	斎藤 明義	阪田 功	坂本 優	佐藤 俊一	鈴木 猛司		
	近間泰一郎	土田 敬明	中津留 誠	中村 哲也	七島 篤志		
	植原 啓之	平川 和貴	松井 裕史	松本 義也	三好 憲雄		
	武藤 学	村垣 善浩	室谷 哲弥	森田 明理	守本 祐司		
	矢野 友規	山本 淳考					
監事	金子 貞男	西脇 由朗					
会計	奥仲 哲弥						

日本光線力学学会 開催歴・予定

敬称略

	開催日時	大会長	開催地		開催日時	大会長	開催地
第1回	1991年10月6日	早田 義博 加藤 治文	東 京	第17回	2007年6月16-17日	中村 哲也	栃 木
第2回	1992年9月5日	中島 進	旭 川	第18回	2008年6月14-15日	松本 義也	名古屋
第3回	1993年10月10日	奥田 茂	大 阪	第19回	2009年7月4日	荒井 恒憲	横 浜
第4回	1994年9月3日	竹村 健	札 幌	第20回	2010年6月12-13日	三好 憲雄	福 井
第5回	1995年11月3日	平嶋登志夫	東 京	第21回	2011年7月2-3日	粟津 邦雄	大 阪
第6回	1996年11月9日	阪田 功	岡 山	第22回	2012年7月6-7日	松村 明	茨 城
第7回	1997年5月24日	西坂 剛	石 川	第23回	2013年6月9-10日	大崎 能伸	旭 川
第8回	1998年6月6日	三木 徳彦	大 阪	第24回	2014年6月28-29日	西脇 由朗	浜 松
第9回	1999年5月22日	會沢 勝夫	東 京	第25回	2015年7月10-11日	古川 欣也	東 京
第10回	2000年5月20日	金子 貞男	岩見沢	第26回	2016年6月25-26日	坂本 優	横 浜
第11回	2001年5月19日	吉田 孝人 平野 達	浜 松	第27回	2017年7月14-15日	武藤 学	京 都
第12回	2002年5月25日	林 潤一	東 京	第28回	2018年11月1-2日	村垣 善浩	東 京
第13回	2003年3月22日	室谷 哲弥	東 京	第29回	2019年9月19-20日	佐藤 俊一	東 京
第14回	2004年5月29-30日	南 三郎	鳥 取	第30回	2020年10月9-10日	臼田 実男	高 知 WEB
第15回	2005年6月11日	尾花 明	浜 松	第31回	2021年10月22-23日	松井 裕史	東 京 WEB
第16回	2006年5月13日	奥仲 哲弥	東 京	第32回	2022年11月25・26日	岡本 芳晴	米 子

編集後記

新型コロナウイルス禍ではありますが、日ごとに春らしい陽ざしを感じるこの頃、みなさまお元気でご活躍のことと思います。

2021年10月22日(金)・23日(土)、第31回日本光線力学学会学術講演会は、筑波大学医学部医療系消化器病態制御医学 松井裕史先生を会長として、第42回日本レーザー医学会総会(会長：慶応義塾大学医学部形成外科 教授 貴志和生先生)、第17回日本脳神経外科光線力学学会(会長：山形大学医学部 脳神経外科 教授 園田順彦先生)とともに、Laser Week in Tokyo IIとして合同開催されました。残念ながら、web開催となりましたが、多数の参加者により盛会となりました。

筑波大学名誉教授 加藤澤男先生による「金メダルの取り方」、さらには日本医用レーザー研究所 大城俊夫先生による「レーザー医療のあゆみと未来」という題目での特別講演を頂き、さらには、産業技術総合研究所 電子光基礎技術研究部門 岩田康嗣先生による「医療機関、企業、大学、行政の連携が創る独自医療技術開発」という題目での教育講演を頂き、いずれも大変盛況となりました。

さて、今回のJPA News Letterでは、令和3年8月21日に93歳で逝去されました、日本光線力学学会名誉幹事・金沢大学名誉教授 久住治男先生に関する思い出、お人柄、偉業を、懐かしいお写真とともに、加藤治文先生および三好憲雄先生に特別寄稿して頂きました。

編集委員一同、久住治男先生のご生前の本学会に対する多岐に亘るご貢献に心から感謝致しますとともに、ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

編集委員長 井上 啓史
(高知大学医学部泌尿器科学講座)

日本光線力学学会事務局
東京都中央区築地 1-12-22
コンワビル 5F

E-mail: jpa-pdt@jhcs.or.jp

学会 HP: <http://square.umin.ac.jp/jpa/>